

**■ 株主メモ**

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
剰余金の配当受領株主確定日	期末配当金については3月31日 中間配当金については9月30日 (当期は中間配当を実施していません。)
単元株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先 (郵便物送付先) (電話照会先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
証券・銘柄コード	7458

**(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて**

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。  
なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

**<お知らせ>**

1. 株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書など)のご請求につきましては、以下のお電話並びにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。  
電話 0120-244-479 (フリーダイヤル)  
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
2. 当社は、貸借対照表及び損益計算書並びに連結貸借対照表及び連結損益計算書を当社ホームページ(<http://www.dkkaraoke.co.jp/>)に掲載しております。

**C O N T E N T S**

株主の皆様へ

セグメント別概況

連結決算概要

株式の状況

会社概要

DKプロモーション

**ECHO****Vol.26** 第34期 決算のご報告(中間)  
2008年4月1日～2008年9月30日

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。また、平素の格別なご愛顧を、深く感謝申し上げます。

ここに、第34期中間期(2008年4月1日～2008年9月30日)の決算をご報告いたします。

私ども第一興商グループは、創業以来、社は“もっと音楽を世にもっとサービスを世に”の精神を貫き、業務用カラオケのリーディングカンパニーとして質の高いエンターテインメントを創出し続けてまいりました。

また、企業経営の観点では、健全な財務実績を残し、将来に備えた投資と技術基盤を整えて継続的・安定的に利益を生み出すことが株主の皆様への利益還元と企業としての社会貢献に繋がると考えております。

第一興商グループは、今後も、音楽や歌を通してすべての人々に喜びと楽しさを届けるため、全力で邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 当中間期の概況

当中間期におけるわが国経済は、原油をはじめとした原材料価格の高騰や米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安など、景気の減速懸念は一段と高まっており先行きの不透明感は依然払拭されないまま推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、景気の影響などにより個人消費にかげりが見えるなか、クラブ・スナックなどのナイト市場は依然厳しい状況が続いております。カラオケボックスなどのデイ市場は、大手事業者を中心に多様化する顧客ニーズに対し各種施策に積極的に取り組む一方、身近なレジャーとして集客は安定して推移いたしました。

代表取締役社長

和田康孝



このようななか、当社グループにおきましては、他社を圧倒する本人映像やライブ映像など多彩な背景映像をはじめ、付加価値の高いコンテンツを提供するフラッグシップ商品「プレミアムDAM(DAM-XG1000)」を中心に、商品の販売及び賃貸の拡大に努め、併せて業務用ネットワークのブロードバンド化に注力してまいりました。また、カラオケルームと飲食店の多店舗・複合型店舗展開を進め収益の向上に努めるなど、各事業へ積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当中間期の売上高は、カラオケ・飲食店舗事業と音楽ソフト事業が増収となったものの業務用カラオケ事業やその他の事業の減収により61,902百万円(前年同期比0.5%減)となりました。利益面におきましては、業務用カラオケ事業の商品販売が低調だったものの、音楽ソフト事業において経営効率化の定着とヒット作品に恵まれたことから営業利益は7,863百万円(前年同期比0.4%減)、経常利益は8,300百万円(同3.9%増)となりました。また、中間純利益は、前年同期に計上した非上場株式の評価損が減少し、法人税などの負担も軽減したことなどから5,058百万円(同138.4%増)と大幅な増益となりました。

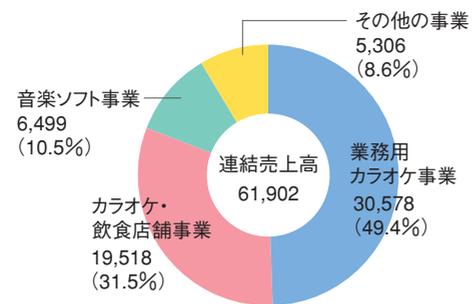
なお、会計処理の変更により、従来販売費及び一般管理費に計上していた「販売促進費」の一部について当期より売上高から直接減額することとし、これにより売上高は従来に比べ354百万円減少しております。また会計基準の変更により、従来営業外費用に計上していた「たな卸資産評価損」は当期より売上原価に計上しており、これにより営業利益は従来に比べ246百万円減少しております。よって、前年同期比較は参考情報として記載しております。

## 通期の見通し

今後の国内経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発する金融不安や世界経済の低迷などの影響を受け、景気後退懸念が高まるなか実体経済にも影響が及ぶと予想され、今後の景気動向として個人消費や設備投資など不透明なことから通期の売上高につきましては前回公表した予想を下回るものと予想しており、125,700百万円を計画しております。

損益につきましては、原材料価格の高騰などコストアップ要因はあるものの当中間期の業績が堅調に推移したことから営業利益15,700百万円、経常利益15,800百万円、当期純利益8,000百万円と前回公表した予想を修正せず据え置いております。

## 連結売上高構成比(中間) (単位:百万円)



四半期報告制度の導入により、従来の中間期に該当する期間が第2四半期累計期間と変更されました。本書では、前年数値比較をわかりやすく掲載することを目的に、「当第2四半期」を「当中間期」として表記しております。

## 連結財務ハイライト



## 業務用カラオケ事業

当事業におきましては、当社グループはカラオケ業界のリーディングカンパニーとして、エンドユーザーに向けたPR活動やTV番組の提供によりカラオケファンの底上げを図るとともに、今年で4回目を迎える「全日本カラオケグランプリ」など業界活性化のための各種イベントに取り組むなど、カラオケ参加人口の増加と定着に努めてまいりました。また、当業界では引き続き顧客ニーズの多様化に対応できるブロードバンド対応機種への需要は高まってきております。

このようななか、当中間期の商品販売が新品を発売した前期と比べ低調に推移いたしましたが、長期安定収益源である機器賃貸及び情報提供料の収入増加に注力し、それ

ぞれの契約件数は増加いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は、商品販売の減少から前年同期比7.6%の減少となり、情報提供料の増益があったものの販売手数料などの一時費用の発生もあり、営業利益は前年同期比12.8%の減少となりました。

(単位：百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	33,091	30,578	△ 2,513	△ 7.6%
営業利益	6,014	5,242	△ 772	△ 12.8%

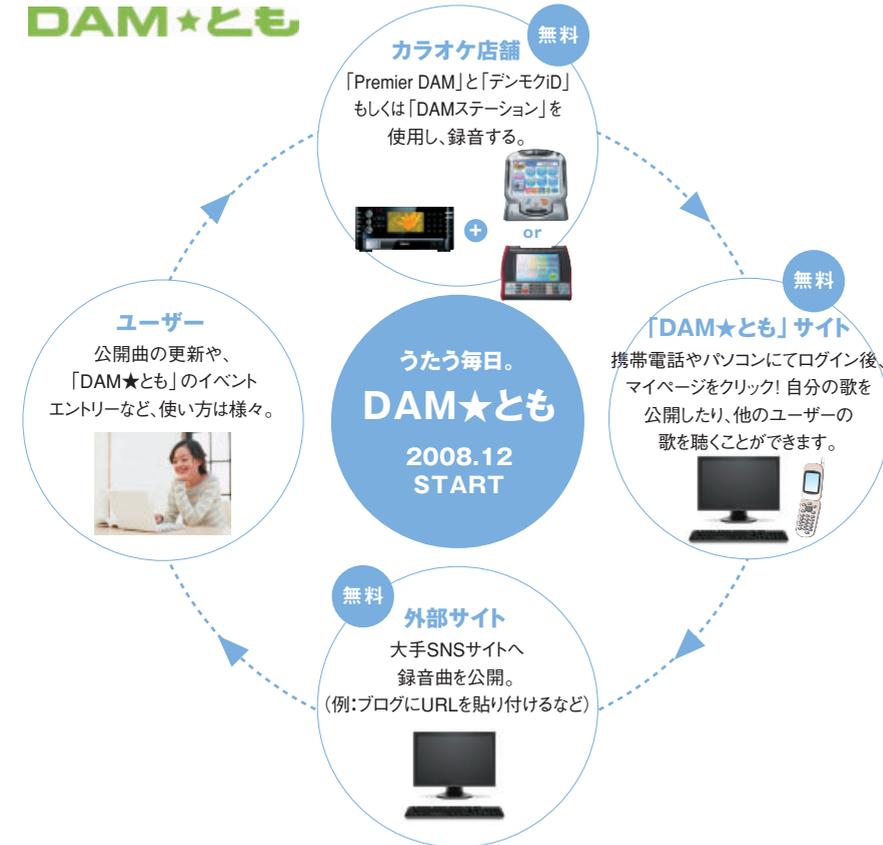
### 主要数値

	単位	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
DAM出荷台数	千台	14	12	△ 2	△ 14.3%
機器賃貸契約件数	千件	55	57	2	3.6%
DAM稼働台数	千台	212	217	5	2.4%
(うちブロードバンド稼働台数)	千台	(84)	(95)	(11)	13.1%
DAMステーション稼働台数	千台	19	19	0	0.0%
club DAM MEMBERSHIP会員数	千人	1,862	2,336	474	25.5%

## TOPICS (業務用カラオケ事業)

### 新サービス

## DAM★とも



～カラオケは「歌う楽しみ」から「自己表現の楽しみ」、そして「コミュニケーションの多様化」へ～  
「DAM★とも」を使って、自慢の歌声を披露したり、記念のデュエットを共有したり、イベントのエントリーをしたりと、たくさんの可能性が秘められています。 ※「DAM★とも」イベントは順次、開催する予定です。

### 新品

## Party DAM V

業界最多の楽曲・映像数<sup>\*</sup>を搭載した「Party DAM V」。  
コンパクトボディにコマンダーはもちろん、アンプ、スピーカー、モニターなど必要機能をすべて搭載する「Party DAM」シリーズの精髓を継承。その上、新たにワイヤレスマイクユニットやデンモクなどを収納する広いスペースを備えた一体型通信カラオケです。  
パーティーの盛り上げ役に欠かせない1台です。

(※：一体型通信カラオケにおいて)



2008年11月発売

## カラオケ・飲食店舗事業

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」が開業20周年を迎え、これを記念した様々なキャンペーンやプロモーション活動を実施いたしました。また、事業効率の高い多店舗・複合型店舗展開を進めるなか、飲食店舗の出店においてはきめ細かいブランド戦略を展開するなど、稼働率と集客の向上に努めてまいりました。

当中間期においては、カラオケルーム「ビッグエコー」8店舗を新規出店し、2店舗を閉店する一方、飲食店舗におきましては、新ブランド「葱や田蔵」をはじめ16店舗を新規出店し、1店舗を閉店した結果、当中間期末現在でビッグエコーが223店舗（国内221・海外2）、飲食店舗は14ブ

ランドの84店舗（国内84）が稼働しております。

以上の結果、当事業の売上高は、集客が安定して推移したことや飲食店舗数が増加したことから前年同期比8.0%増加となり、出店コストの影響はあったものの営業利益は前年同期比3.9%の増加となりました。

（単位：百万円）

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	18,064	19,518	1,454	8.0%
営業利益	2,294	2,384	90	3.9%

### 主要数値

	単位	前中間期	前期末	当中間期	当期増減	当期増減率
ビッグエコー店舗数	店	218	215	221	6	2.8%
（うち複合店舗数）	店	(23)	(24)	(26)	(2)	8.3%
” ルーム数	ルーム	6,425	6,370	6,461	91	1.4%
飲食店舗数	店	65	69	84	15	21.7%
” 座席数	席	7,908	8,358	10,104	1,746	20.8%

（注）上記数値には海外店舗を含んでおりません。

BIG ECHOは、  
おかげさまで  
20周年。

### TOPICS (カラオケ・飲食店舗事業)

ビッグエコーは、9月で20周年を迎えることができました。  
株主の皆様におかれましては、日々のご愛顧に厚く御礼申し上げます。

#### 進化し続けるビッグエコー！

ビッグエコー1号店は、福岡の「二又瀬店」でした。当時は、ノンアルコールでカラオケを楽しむ若年層や主婦層をメインユーザーとしたコンテナタイプのお店でした。その後、ビルインタイプへと変化し、最近では、ビッグエコーと飲食店舗との複合店舗へと発展してまいりました。

現在、ビッグエコーは、国内221店舗（2008年9月末）あり、20年を礎に更なる業容の拡大を図ってまいります。



ビル棟型1号店  
数寄屋橋店／63ルーム  
（東京）



写真例：秋葉原駅前店  
複合型1号店（BE+飲食）  
浜松町駅前店（東京）

1988年9月

ビッグエコー1号店  
コンテナタイプ  
二又瀬店／12ルーム  
（福岡）



1990年1月

ビルインタイプ1号店  
三軒茶屋店／19ルーム  
（東京）

1993年7月

郊外大型1号店  
in モナコ店／40ルーム  
（茨城）

1997年10月

ビル棟型1号店  
数寄屋橋店／63ルーム  
（東京）

2005年7月

※ルーム数はオープン当時

#### これからも愛されるビッグエコーを目指して！

安心・安全をキーワードに、「建築・消防基準のクリア」、「食材一括仕入れによる食の安全確保」、「衛生検査の全店実施」など、お客様に安心・安全な店舗づくりに努めております。

今後も、収益性を考慮した新規出店を積極的に取り組み、駅前一等地では、複合店舗を有効活用した大型店の出店や地域・商圈に合った中・小規模店の出店など、効率のよい店舗展開を図ってまいります。

## 音楽ソフト事業

当事業におきましては、これまで取り組んできたレコード子会社における返品率の改善や営業コスト低減による経営の効率化によって、安定収益の基盤が確立されてまいりました。当中間期におきましては、4月に発売した(株)徳間ジャパンコミュニケーションズの「Perfume (パフューム)」のアルバム「GAME」が約45万枚、また8月に発売した

日本クラウン(株)の「九州男(くすお)」のアルバム「HB」が約17万枚売上げるとともに、両アーティストを中心に音楽配信収入も前年同期に比べ2.1倍と順調に伸びし収益の増加に大きく寄与いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比15.5%増加となり、営業利益は5.3倍と大幅な増益となりました。

(単位：百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	5,626	6,499	872	15.5%
営業利益	192	1,011	818	425.0%

## その他の事業

当事業におきましては、「スカイパーフェクTV!」をプラットフォームとする衛星放送事業や携帯電話向けコンテンツサービスのほか、不動産賃貸事業を含むその他の事業を行っております。

衛星放送事業及び携帯電話向けサービスにおきましては、加入者数は減少傾向にありますが、コストコントロールの継続によって安定した収益確保に努めております。不動

産賃貸などその他の事業におきましては堅調に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は前年同期比1.8%減少となり、また衛星放送事業及び携帯電話向けサービスの加入者数の増加を図るため販売費用が増加したことから営業利益は前年同期比13.5%減少となりました。

(単位：百万円)

	前中間期	当中間期	対前期増減	増減率
売上高	5,406	5,306	△ 99	△ 1.8%
営業利益	942	815	△ 127	△ 13.5%

## TOPICS (音楽ソフト事業)

### ■ 九州男(くすお)

インディーズで数々の記録を残し、2008年2月に待望のメジャーデビューを果たした九州男。

デビューシングル「1/6000000000 feat.C&K」は、大ヒットとなり、音楽ダウンロード件数は40万件を記録!

そして、8月にはデビューシングルを含むメジャー1stアルバム「HB」を発売。オリコンアルバムチャート初登場2位を記録し、現在もロングセールを記録中。

九州男児の魂を込めた歌詞と歌声がファンの心を熱くします!



CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.

### ■ 岡本真夜

衝撃のデビュー曲「TOMORROW」から13年。着々と自分の道を歩み続け、自らの音楽活動のほか、多くの有名アーティストのプロデュースや楽曲提供をするなど多方面で活躍中。

10月には、スキマスイッチの大橋卓弥さんとのデュエット曲「明日ハレルヤ!」を含む10枚目のアルバム「seasons」を発売。また、アルバムと同タイトルのライブを12月から開催。

彼女の心に響く歌声をぜひお聴きください!



CROWN NIPPON CROWN Co.,Ltd.

### ■ Perfume (パフューム)

独特のサウンドとダンスで現在大ブレイク中のPerfume。初の全国ツアーを終え、そのライブDVDが好評発売中!

11月にはニューシングル「Dream Fighter」を発売。更に日本武道館での2daysコンサートも決行するなど一躍、人気アーティストの仲間入りを果たした。

また、新感覚トークバラエティ番組「Perfumeの気になる子ちゃん」が日本テレビ系列で放映中。彼女たちの魅力満載のトークも要チェックです!



TOKUMA JAPAN COMMUNICATIONS

### ■ Ryu Siwon (リュ・シウォン)

俳優として歌手としてマルチに活躍する韓国の大スター、リュ・シウォン。

11月には初のベストアルバム「Ryu Siwon Ballad Best Album」を発売。選りすぐりのバラード曲を集めた珠玉のバラードベストです。

また、12月23日・24日にはファン待望のクリスマス公演が東京ドームで行われます。彼の甘いマスクと優しい歌声で癒され度100%!!

今後も多くの女性を魅了すること間違いなしでしょう!



TOKUMA JAPAN COMMUNICATIONS

**POINT**

**流動資産**

流動資産の減少1,806百万円は現金及び預金の減少2,262百万円、たな卸資産の増加564百万円が主なものであります。

**固定資産**

固定資産の増加261百万円は差入敷金・保証金の増加583百万円、カラオケルーム及び飲食店舗設備の増加296百万円、投資有価証券の減少579百万円、長期貸付金の減少420百万円が主なものであります。

**流動負債**

流動負債の増加355百万円は短期借入金の増加1,207百万円、未払法人税等の減少528百万円、未払金の減少416百万円が主なものであります。

**固定負債**

固定負債の減少4,119百万円は長期借入金の減少4,284百万円、役員退職慰労引当金の増加79百万円、退職給付引当金の増加72百万円が主なものであります。

**■ 連結貸借対照表の要旨(中間)**

[ご参考]

(単位:百万円)

科 目	第34期中間 2008年9月30日現在	第33期 2008年3月31日現在	対前期末 増減額
<b>資 産 の 部</b>			
流動資産	45,608	47,414	△ 1,806
固定資産	77,568	77,307	261
有形固定資産	47,702	47,211	490
無形固定資産	6,333	6,324	8
投資その他の資産	23,533	23,771	△ 238
資産合計	123,176	124,721	△ 1,544
<b>負 債 の 部</b>			
流動負債	31,784	31,428	355
固定負債	16,773	20,893	△ 4,119
負債合計	48,558	52,322	△ 3,764
<b>純 資 産 の 部</b>			
株主資本	74,855	72,595	2,259
資本金	12,350	12,350	—
資本剰余金	20,362	20,362	—
利益剰余金	43,380	40,149	3,231
自己株式	△ 1,238	△ 266	△ 972
評価・換算差額等	△ 861	△ 733	△ 128
その他有価証券評価差額金	△ 106	47	△ 154
土地再評価差額金	△ 777	△ 845	67
為替換算調整勘定	23	64	△ 41
少数株主持分	624	537	87
純資産合計	74,618	72,399	2,219
負債及び純資産合計	123,176	124,721	△ 1,544

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**■ 連結損益計算書の要旨(中間)**

[ご参考]

(単位:百万円)

科 目	第34期中間 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	第33期中間 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	対前年同期比 (%)
売 上 高	61,902	62,188	99.5
売上原価	35,619	35,561	100.2
売 上 総 利 益	26,283	26,626	98.7
販売費及び一般管理費	18,419	18,731	98.3
営 業 利 益	7,863	7,895	99.6
営業外収益	802	870	
営業外費用	366	776	
経 常 利 益	8,300	7,989	103.9
特別利益	420	307	
特別損失	528	3,025	
税金等調整前中間純利益	8,192	5,271	155.4
法人税、住民税及び事業税	3,087	3,195	
法人税等調整額	△ 45	△ 90	
少数株主利益	92	44	
中 間 純 利 益	5,058	2,122	238.4

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

〈注記事項〉	第34期中間	第33期中間
1. 有形固定資産の減価償却累計額	50,857百万円	51,008百万円
2. 保証債務	641百万円	620百万円
3. 1株当たり中間純利益	73円33銭	30円49銭
4. 1株当たり純資産額	1,081円13銭	969円51銭

**POINT**

**売上高**

カラオケ・飲食店舗事業と音楽ソフト事業が増収となったものの業務用カラオケ事業やその他の事業の減収により、前年同期比99.5%、61,902百万円となりました。

**営業利益**

業務用カラオケ事業の商品販売が低調だったものの、音楽ソフト事業において経営効率化の定着とヒット作品に恵まれたことから前年同期比99.6%、7,863百万円となりました。

**中間純利益**

前年同期に計上した非上場株式の評価損が減少し、法人税等の負担も軽減したことから前年同期比238.4%、5,058百万円と大幅な増益となりました。

**「四半期報告制度」の導入における  
適用初年度の対応について**

当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されました。適用される会計基準や用語などが、当四半期に係る財務情報と前年同期に係る財務情報との間で異なります。前年同期に係る数値は参考データとしてご確認ください。

**POINT**

- 営業活動によるキャッシュ・フロー**
- 税金等調整前中間純利益 ..... 8,192百万円
  - 減価償却実施額 ..... 6,583百万円
  - 法人税等の支払額 ..... 3,644百万円
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**
- 有形固定資産の取得による支出 ..... 5,782百万円
  - 無形固定資産の取得による支出 ..... 1,896百万円
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**
- 長期借入金の返済による支出 ..... 5,311百万円
  - 配当金の支払額 ..... 1,730百万円
  - 長期借入による収入 ..... 1,840百万円

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨(中間)

【ご参考】  
(単位:百万円)

科目	第34期中間 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	第33期中間 2007年4月1日から 2007年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,236	10,675
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,630	△ 9,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,783	△ 5,523
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 134	27
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,312	△ 4,158
現金及び現金同等物の期首残高	28,300	31,918
現金及び現金同等物の中間期末残高	25,988	27,759

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**ホームページのご案内** 当社ホームページでは投資家の皆様に役立つ様々な情報をご紹介します。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.dkkaraoke.co.jp/>

IR情報(投資家の皆様へ)にアクセス!



トップページ

以下の内容がご覧いただけます。

- ・IRニュース
- ・株式情報
- ・財務諸表
- ・IRスケジュール
- ・株主優待

など



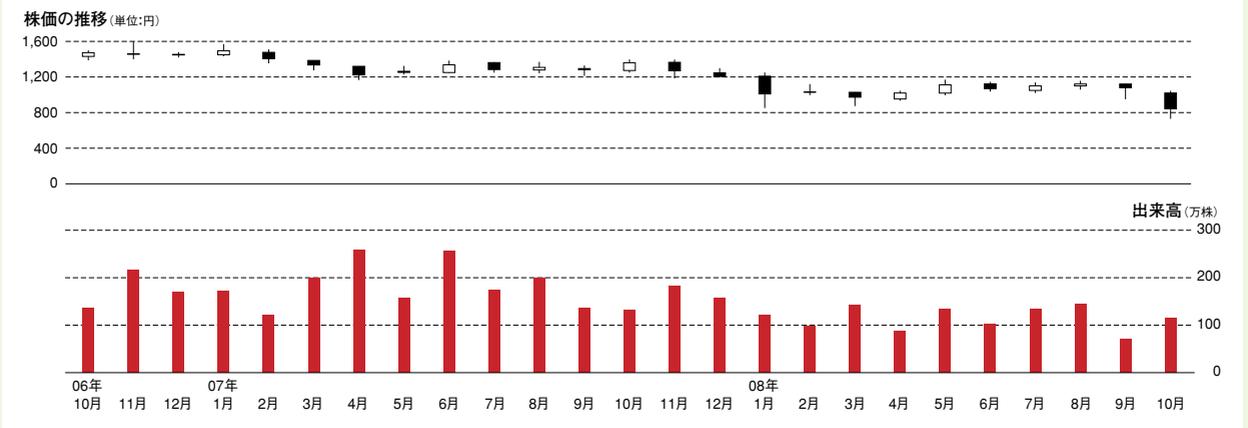
発行可能株式総数 200,000,000株 発行済株式の総数 69,600,596株 株主数 9,286名

■ 大株主

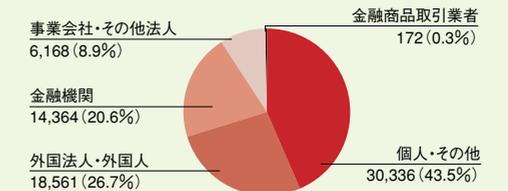
株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
保志忠 郊	8,069	11.7
保志治 紀	8,020	11.7
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	5,046	7.3
(有)ホシ・クリエート	4,449	6.5
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,654	3.8
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,532	3.7
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505223	1,877	2.7
メロンバンクリーディークライアントツオムニバス	1,617	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,229	1.8
三菱UFJ信託銀行(株)	1,148	1.6

1. 当社は1,159,346株の自己株式を保有しております。
2. 持株数、議決権比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 株価(月足)チャート



■ 所有者別株式分布 (単位:千株/構成比)



■ 地域別株式分布 (単位:千株/構成比)

